

第 79 回国民スポーツ大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会
第 2 回式典・会場専門委員会 議事録（概要）

1 日時

令和 3 年(2021 年) 6 月 10 日（木） 10:30～11:30

2 場所

日本生命大津ビル 4 階会議室

3 出欠状況（五十音順、敬称略）

委員 19 名中 18 名出席（1 名代理出席）

出席：浅見 孝円、稲葉 芳子、梅本 剛雄、大橋 奈希左、小川 亮、片山 彰一、加藤 三男、
佐々 康浩、武田 英明、田中 満、中島 誠一、伏見 強、村田 耕一、目片 佳子、
山下 徳子、横井 正弘、米田 正博、渡邊 裕子（松宮 智之委員の代理出席）

欠席：豊田 則成

（事務局：岡田事務局長、他事務局職員 9 名）

4 配付資料

別添のとおり

5 会議概要

審議事項（1）

※事務局から「第 79 回国民スポーツ大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会式典基本構想（案）」
について説明。原案どおり承認。

【質疑・意見】

<委員>

選手と一緒に開会式に参加した時の感想を、参考に紹介しておきたい。愛媛県（平成 29 年開催）は猛暑の中での開会式となり、プラカードを持つ学生が倒れられたことがあった。福井県（平成 30 年開催）は台風が接近し、暴風雨の中での開会式となり、簡易なレインコートが配布されたものの、全身雨に濡れた状態で長時間待機することとなった。翌日から競技会を控えている選手の体力消耗を心配した。共通して感じたことは、選手の集合から入場行進が始まるまで 3 時間を超える待ち時間があり、選手への負担が大きいということである。

一方で、そのような中でも、おもてなしをしてくれるスタッフの笑顔での対応や、地元小学生で構成された応援団による声援で、緊張や疲れがとれ、選手たちにとっても大きな励みとなっていたと思う。本県での開催においても、そのような人と人とのふれあい、心のこもったおもてなしの部分は残していただきたい。

<委員>

全日本吹奏楽連盟の役員も担っていることから、他県の国体に関わった担当者の声を聞く機会があった。その際、「国体では、総合演出に専門家が入ることがあり、決められた枠の中でしか式典音楽の演出に関わることができなかった。結局、その演出家が決めたことをさせられることとなり、自分達らしさを表現できる場ではなかった。」という意見を聞いた。本県では、委員会の意見や実際に演奏に関わる演奏者の思いがしっかり反映されるように進めて

いただきたい。

<事務局>

選手ファーストはもちろんであるが、誰のための大会（式典）であるのかということ念頭におき、参加者、観覧者等、すべての人が主役となって輝くことができるような式典を構築していきたい。

審議事項（2）

※事務局から「第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会滋賀県開催準備委員会 式典・会場専門委員会部会設置要綱（案）」について説明。原案どおり承認。

【質疑・意見】

なし

その他

※事務局から「『三重とこわか国体・三重とこわか大会』における新型コロナウイルス感染症対策をふまえた開・閉会式」について説明。

【質疑・意見】

<委員>

三重県の資料を見て、なるほどと思った。滋賀国スポ・障スポが開催となる4年後にはデジタル化はさらに進んでいると思われる。加えて、今年開催される予定のオリ・パラ後は、観覧する側の意識も変わってくると思われる。そのような変化が見込まれる中で、今後、日本スポーツ協会が示している従来の式典に戻していく見解について、果たしてそれでよいのか。ここについては今後もっと議論された方がよいのではないか。

<事務局>

選手の負担軽減のためにも、従来どおりの式典から、デジタル技術の活用等も含めて、見直しをできないか検討していきたい。今後、先催県の情報を収集し、委員会でも御意見を頂戴しながら、本県の式典のあり方について十分検討を進めていきたい。その上で、日本スポーツ協会等、関連機関とも協議していきたい。

<委員>

今後、小・中・高・特別支援学校と多くの子ども達が大会に関わっていくことになると思うが、子ども達が「やらされている」という感覚にならないように進めていってほしい。ボランティアも含めて、参加者全員が輝ける国スポ・障スポとなるよう、子ども達の気持ちも大事にしながら、おもてなしの心を広めていく必要がある。

<事務局>

子ども達はもちろん、県民が主体的に両大会の開催に関わっていただけるよう、今後、国スポ・障スポの広報・啓発活動に、より一層力を入れていくとともに、おもてなし等を含め、準備を進めていきたい。

以上